

2013.6.4

親の会が主体となって構築した  
発達障害児のための  
教材・教具データベース

山岡 修

(NPO法人全国LD親の会・顧問)

# 特別支援教育とは？

特別支援教育とは、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。

(「今後の特別支援教育のあり方について」、文部科学省協力者会議, 2003)

# 特別支援教育とは？

## かつての特殊教育

障害の種別と程度に応じて、盲聾養護学校、特殊学級といった、箱(設備)が用意され、振分けられる仕組み

子ども達が制度に合わせなくてはならない仕組み

## 特別支援教育が目指す姿

障害の種別を超え、一人ひとりのニーズに応じた、一貫性のある支援を提供

学校や教員が、子ども達一人ひとりのニーズに合わせていく仕組み

# LD(学習障害児)に対する指導方法は？

「学習障害児に対する指導について(報告)」より(平成11年7月2日)

従来の特殊教育においては、障害の種類や程度に応じた固有な指導内容・方法、あるいは指導形態があるが、学習障害児については、①困難のある特定の能力の種類により指導方法等が異なることもあり、学習障害児に共通した一般的な指導方法は現時点では確立されていない。

さらに、②同一の能力に困難を有していても、個々の学習障害児に生じている学習上のつまずきや困難などは様々であり、これらを改善するためには、個々の実態に応じた指導を行うことが必要である。

①学習障害児の持つ困難は多様⇒指導法も多様

②同じ困難でも、要因は様々 (逆から見ると)

# 発達障害のある子どもに対する指導方法を確立するには？

「発達障害のある児童・生徒が示す、困難は多種・多様であり、同じ指導法は使えない」

**A君**：計算（繰り下がり算）が苦手、忘れ物が多い、縄跳びがうまく跳べない、ちょっとしたことにすぐイライラする。

**B君**：文字を読むことが苦手、人の気持ちがわからない、ハサミをうまく使いこなせない。

**C君**：聞いたことを覚えられない、計算（繰り下がり算）が苦手、姿勢の保持ができない。

一人ひとりバラバラであり、個人別に分類しても他の子どもにその指導法を当てはめることは難しい

# 発達障害のある子どもに対する指導方法を確立するには？

「発達障害のある児童・生徒が示す、困難は多種・多様であり、同じ指導法は使えない」

A君：計算（繰り下がり算）が苦手、忘れ物が多い、縄跳びがうまく跳べない、ちょっとしたことにすぐイライラする。

B君：文字を読むことが苦手、人の気持ちがわからない、ハサミをうまく使いこなせない。

C君：聞いたことを覚えられない、計算（繰り下がり算）が苦手、姿勢の保持ができない。

困難別にパーツとして捉えると、共通点が見つかり、指導法が他に応用できる可能性がある

# 発達障害のある子どもに対する指導方法を確立するには？

「計算（繰り下がり算）が苦手」

$$13 - 7 = 6$$

【困難の要因】

- ① 数の大小を見分けられない
- ② 一桁の引き算、足し算
- ③ 10の補数が頭に入っていない（ $3+7=10$   $4+6=10$ ）
- ④ 短期記憶が悪い

視覚認知、聴覚認知、視空間認知、言語理解、音韻処理、継次処理、感覚、目と手の協応運動、注意集中、短期記憶

# 発達障害のある子どもに対する指導方法を確立するには？

- 発達障害児に対する指導の中心は、通常の学級
- 通常の学級の教員が指導できるような仕組みが必要
- 世の中には、すぐれた指導法や教材・教具が沢山あるが、大半が「一代限りの宝物」として埋もれている
- 指導法や教材・教具を紹介している本やサイトは多々あるが、体系的に整理されていないものが大半であり、A君に使えるものが探せない
- 発達障害児の持つ困難を体系的に整理して、指導法や教材・教具を整理し紹介するDBを作れば良いのではないかと色々な機関や研究者に提案したが、取り組んでくれる機関はなかった

**それなら、「親の会で作ってしまおう」**

# 発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)

(全国LD親の会作成) <http://www.jpald.net/research/>

- 平成18年度、19年度、文部科学省「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」を受託
- 専門家や教員の方の御協力を得て、「LD、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害向けの教材・教具の実証研究」を実施し、約440の教材・教具データベースを構築
- 平成21年度～、日本財団の助成を受けて、データベースの拡充に取り組み、現在約1000種類の教材・教具を掲載している。

# 全国LD親の会が作成している「発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)」



The screenshot shows the homepage of the website. At the top left, there is a photograph of two hands, one larger and one smaller, holding a small object. To the right of this is the logo for '全国LD親の会' (All Japan LD Parents Association), which features the letters 'LD' in a stylized font with a green and red color scheme. Below the logo, the title of the website is written in Japanese: '発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)'. On the left side, there is a vertical navigation menu with five buttons: 'トップ' (Top), 'サポートツール' (Support Tools), '教材データベース' (Textbook Database), 'お問い合わせ' (Contact Us), and 'サイトマップ' (Site Map). The main content area on the right contains the following text:

LD、ADHD、高機能自閉症等のある子ども達に対するサポートツール検索サイト

2005年に設置され、徐々に進められてきた特別支援教育への転換は、リーディング校を中心に体制整備が進み、活字等の改正を受け2007年度から制度として正式にスタートしました。しかし、あつたに特別支援教育の対策として創られた、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子ども達への入校への指導、支援の在り方は、国立特別支援教育総合研究所や各地の教育センター等による研究において補助的な教具や教材など、有効な事例がいくつか報告されていますが、体系化や一般化には至っていないのが現状です

<http://www.jpald.net/research/>

# 全国LD親の会が作成している「発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)」

教師・保護者等がデータベースを利用しやすいように、次の区分で検索できるように、1000の教材・教具をデータベース化

## 1. 教材・教具分類(区分1－区分2－学習の領域)

区分1 :「国語」「算数」「その他の教科」「運動と姿勢」「日常生活活動」  
「行動」「対人関係・社会性」

区分2 :国語:「聞く」「話す」「読む」「書く」

## 2. 「困難」の記述

子どもの「困難」をエピソードとして、できるだけ具体的に記述。

例:「長い言葉や新しい単語などに対して何度でも聞き返す」

## 3. 「困難の要因」

「認知、感覚、運動、注意集中、記憶、その他」の6区分に分類。

# 全国LD親の会が作成している「発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)」

区分1	区分2	学習の領域	困難	困難の要因						サポート・ツール 名称
				認知	感覚	運動	注意集中	記憶	その他	
1. 国語	聞く	ことばの聞き分け	聞き漏らしや聞き間違いがある							
			聴いたことをすぐに忘れる							
			長い言葉や新しい単語などに対して何度も聞き返す							
		話の聞き分け								
	ことばの理解									
	話・指示の理解									
	音韻操作									
話す										
読む										
書く										
2. 算数	数と計算									
	数量関係									
	量と測定									
	図形									
	文章題									

# 全国LD親の会が作成している「発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)」

区分1	区分2	学習の領域	困難	サポート方法/ツール名称
国語	聞く	ことばの聞き分け	聞き漏らしや聞き間違いがある	スリーヒントゲームのカルタ
国語	聞く	ことばの聞き分け	聞いたことをすぐ忘れる	スリーヒントカルタ
国語	聞く	ことばの聞き分け	聞いたことをすぐ忘れる	きくきくドリル
国語	聞く	ことばの聞き分け	聞いたことをすぐ忘れる	聞いて書こう

➤教材・教具は、「魔法の杖」ではなく、適切な指導法が必要なので、指導した「実証データ」も掲載している

# 障害のある子どもに対する指導方法を確立するには？

- 障害のある児童生徒が持つ困難やニーズは多様
- 一人一人の児童生徒が持つ困難を的確に把握し、その困難の要因に合せた適切な指導を行っていくことが求められる
- 困難やニーズを体系的に整理し、指導法や教材・教具を提供できるようなデータベースの構築が必要

親の会の力では限界があり、国の機関等で、このデータベースを元にして、増殖・拡充させていくようにしていただきたい

## サポートツール収集フォーマット

(表1)

区分1	区分2	学習の領域	困難	困難の要因						サポート・ツール				
				認知	感覚	運動	注意集中	記憶	その他	名称	既存/新規/自作	入手経路		
1. 国語 教材・教具数103	聞く	ことばの聞き分け												
		話の聞き分け												
		電話の聞き取り												
		ことばの理解												
		話・指示の理解												
	話す	音韻操作												
		発音・発語												
		語彙												
		語彙・話の文法的構成												
		話の文法的構成												
	読む	会話												
		電話対応												
		文字の読み												
		単語の読み												
	書く	文章の音読												
		文章の読みとり												
		鉛筆の使い方など												
		字形												
		音を文字に変換する												
	2. 算数 教材・教具数78	数と計算	文の組み立て											
作文														
板書を写す														
数と数字														
順序														
分解合成														
足し算・引き算														
かけ算														
わり算														
小数														
数量関係		分数												
		文章題												
		四則混合計算												
		大小												
量と測定		表とグラフ												
		比												
		割合												
		長さ・重さ												
図形		時刻・時間												
		面積・体積												
	比													
	平面図形													
文章題	垂直と平行													
	立体図形													
	作図													
その他	文章題													
	巧緻動作													
3. その他教科 教材・教具数4	物の固定と利き手操作													
	a. 理科													
	b. 社会													
	c. 音楽	リコーダー												
	d. 英語													
	e. 体育	左右両側運動と手足の協調運動												
4. 運動と姿勢 教材・教具数66	x. その他													
	手で物を扱う	力の調節												
	両手を使う	両手同時の反対方向への動き												
		両手の向かい合う動き												
		両手と体の調節												
	目と手の協応 他	目と手の協応動作												
		物の固定と利き手操作												
		視覚運動遊び												
	移動する	姿勢の調整												
		体の方向決め												
人の動きへの注意														
止まる・止める														
危険回避														
安全の判断と行動														
地面や環境への注意														

区分1	区分2	学習の領域	困難	困難の要因						サポート・ツール		
				認知	感覚	運動	注意集中	記憶	その他	名称	既存/新規/自作	入手経路
5. 日常生活活動 教材・教具数131	乗り物に乗る	立位保持										
		立位バランス										
	遊具で遊ぶ	前庭運動遊び										
		器械体操										
		視覚運動遊び										
	姿勢	姿勢保持										
	食事	道具操作										
		持ち方										
		目と手の協調										
		両手への同時注意										
		食べる順序										
		満腹感										
	排泄	トイレ環境への適応										
排尿・排便感覚												
姿勢保持												
ルールの理解												
更衣	服の位置関係											
	服と体の関係											
	裾の後始末											
	ボタン操作											
	着替えの手順											
	服素材への適応											
	ひも結び											
	靴履き											
入浴・整容	洗顔											
	洗体											
	洗髪											
	拭き取り											
	歯磨き											
	爪切り											
6. 行動 教材・教具数22	不注意	選択的注意：注意を払う										
		注意の持続：集中し続ける										
		外部刺激への反応の抑制										
		プランニング・実行機能等										
		場面に即した行動										
	多動	身体の一部をしばしば動かしている										
		多動										
	衝動性	欲求・行動の統制										
		ストレス耐性										
	情緒面	情緒の安定										
感情の統制												
自尊感情など												
7. 対人関係・ 社会性 教材・教具数36	社会性	自意識										
		知識・感性										
		スキル										
	対人関係	興味関心										
		コミュニケーションスキル										
		内向・引きこもり										
		葛藤の処理										
	限定された興 味やこだわり	興味のこだわり										
		思い込み・信念										
		ものへのこだわり										
		行動へのこだわり										
		感覚										
変化への抵抗												
9. その他												